

■実施概要

札幌市温暖化対策推進計画改定に向けた実践者ワークショップ

日 時：2019年8月6日（水）18：15～20：45

会 場：札幌市役所地下1階 1号会議室

主 催：札幌市環境局 共催：環境中間支援会議・北海道※

参加者：24名（主催・共催者よりお声がけ）

※ 環境省北海道環境パートナーシップオフィス、公益財団法人北海道環境財団、札幌市環境プラザ（指定管理者：公益財団法人さっぽろ青少年女性活動協会）、NPO法人北海道市民環境ネットワークの4拠点で構成し、環境保全活動に関する情報受発信、セミナー・ワークショップ等を協働で実施しています。

内 容：

（1）開会（5分）

（2）情報提供：札幌市温暖化対策推進計画の改定方針について（30分）

提供者：札幌市環境局

（3）グループワークで方針に対する意見だし（80分）

（ア）2050年の長期目標と目指すべき札幌の姿について

（イ）2030年の中期目標と目標達成に向けた施策検討の視点について

（ウ）適応策検討の方針について

（4）全体共有・まとめ（30分）

（5）閉会（5分）

札幌市環境局より今後のスケジュール等

■実施状況（写真）



札幌市温暖化対策推進計画改定に向けた実践者ワークショップ 実施報告 グループ1

2050年の長期目標では、脱炭素を目指すために札幌市が道内の自治体と地域新電力設置や新エネルギー利用の連携も視野に入れてはどうかという話になりました。また、2050年の世代に向けてた情報提供も大切だと思います。2030年時点で社会は縮んでいることが予想され、公共施設はすべて再生可能エネルギーにすることを旨とする、という話もできました。

※ () は、参加者による投票シール数



<p>2050年の長期目標と目指すべき札幌の姿について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・温暖化緩和以外のメリットを示す ・“自然共生”など (1) ・札幌の強み弱み、先行できそうなところはないか ・歩いて暮らせる？ お店、住宅地点在するのでは ・歩いて暮らせるまち！ 賛成！ → 現実にはスーパー撤退バスの本数減 ・自動運転技術のこと ・高齢化社会を迎える中で市民への情報提供が難しいのでは？ ・情報提供は、もっと近い未来から分かりやすい提供が必要ではないか (2) ・四季を感じられる家も ・家電等の寿命が短くなっている → 廃棄物削減との矛盾 ・住宅30年で最新にならない・・・ ・企業の脱炭素化の貢献の取組を強化する 	<ul style="list-style-type: none"> ・プラスチック削減 → 森林の保全 (紙の利用大) その他素材の開発 ・ススキを植える ・札幌市と道内市町村との協定はよいと思う ・道内のほかの自治体の取り組みを支援することに目を向ける (2) ・2050年に木質バイオマス利用するならば、今から「計画的」植林 ・2050年の「ほぼすべてが再生可能エネルギー」とは何からのエネルギーを想定しているのか ・林業のサポート 酪農との競合 バイオマス発電所に必要 (1) ・地域新電力を作る (2) ・ペレットストーブやまきストーブの大幅な利用 (1)
<p>2030年の中期目標と目標達成に向けた施策検討の視点について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・気候変動の危機感が今よりもっと共有されている (知識も) ・住宅 (新築改築) 相談 再エネ・省エネ情報提供あたりまえ ・社会が縮む ・働き方改革で大きな変化が起きている！ はず ・電気自動車の導入が進んでいる ・雪クーラー ・街がいくつかに衛星化している ・観光バス、レンタカー利用に課税して電化を促進する ・観光バスの電化などを観光税で、とか 	<ul style="list-style-type: none"> ・公共施設で使うエネルギーはすべて再生可能エネルギー (1) ・予算不足でできない！ ということがなくなっている ・LEDが100%普及 ・ソーラーカーの普及 ・脱プラスチック 変わるものではなくて使わないになっているとよい ・使い捨てプラスチック半減 ・札幌近郊にバイオマス発電所1つ目
<p>適応策検討の方針について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今と関係していることがわかりやすい目的づけ ・避難所充実 ・CO2ふやさず・・・ ・緑化推進 木陰のある街 街路樹を切るのはもったいない 	<ul style="list-style-type: none"> ・雪の利用 (2) ・緑を増やす CO2を減らそう ・熱中症対策としてエアコンの普及 ・自然共生を究める。雪、地形の利を生活に取り入れる (2)

札幌市温暖化対策推進計画改定に向けた実践者ワークショップ 実施報告 グループ2

課題への対策を書く計画はワクワクしません。どんな街に住みたい、生活の質をあげる等の視点を取り入れることで温暖化=我慢から視点をずらしていくことが中心のお話になりました。2050年長期目標「運輸部門」の「歩いて暮らせる」ではなく「歩きたくなるまちづくり」がよいと思います。すべてのことはつながっていますで、貧困世代への視点などもある同時解決を考えていくことが必要という話もできました。適応策では、暖くなるメリット、長期休みがあるといった話になりました。

※ () は、参加者による投票シール数



<p>2050年の長期目標と目指すべき札幌の姿について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・歩きたくなる街並みに (1) ・ポロクルもっと利用しやすく ・車道→歩道へ ・市内中心部への自動車制限 ・水素供給のインフラ整備計画も必要 ・目指すべき姿に適応策のことが書かれていない ・地下活用 (夏の暑さ冬の雪対応) 地下ネットワーク ・建物に対する環境配慮基準 (ex) LEED) ・コンパクトでまとまった生活 エリア啓成 (公共サービス、病院、ショッピング、学校) ・高齢者集合コミュニティ住居 トップスペック環境住居 ・2-3 条例で収集したデータの活用 (事業者のCO2 マネジメント) ・市センター部サテライトエリア (地区) 間の公共交通ネットワーク (EVにする等) 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活の価値観がどのようにかわっていくか (1) ・どんなまちに住みたいか、暮らしたいか (2) ・道内の自然エネルギーのポテンシャルが市内でも十分に生きている ・外国人労働者インバウンドへの対応～とりのこさない?～ ・目標達成の見える化 ・森林の保全+再生も加えては? ・資源の確保 環境を守る 環境向上 (1) ・空地の緑化 暑さ対応 ・2-2行動科学の活用 無関心層へのアプローチ ・CO2個人から売れるメニューを作る (1) ・環境活動のポイント制度→コイン ・ZEH、ZEB どの位効果があるのか? 今でも高気密? ・貧困世帯という視点 (1) ・長期的視点をもつには ・公共交通 (水素バスetc.) 利用しやすく (料金・運行)
<p>2030年の中期目標と目標達成に向けた施策検討の視点について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・環境だけじゃダメだな (1) ・生活に必死で! 若者 ・行動を変えるための教育 (ナッジ?) ・今、自分にデメリットがない ・将来をみすえるかせげる安心感 ・公共建物の減統合 (合理化 省エネ化) ・学校病院等の公共性の高い建物の100%省エネ化 ・札幌型省エネ基準の条例化 (高レベル断熱、パッシブ換気型) ・歩道、自転車道路の拡大 ・新技術 (環境) のコンペ ・ごみの資源化センター 分別センター ・人材育成それぞれの立場で目標ひとつは達成している 	<ul style="list-style-type: none"> ・こんな街に住みたいWSが市内で普通に開かれ具体化しはじめる (1) ・子どもから大人まで暮らしたい街の姿を語れる→行動 ・相談時市民同士、企業・行政だれに聞いたらよいかわかる ・省庁や部を超えた議論 ・エアゾール 食品ロス ・食品ロスに対する対応の条例 教育要 ・学校教育への関連性強化 (カリキュラム火) 担い手の増加へ (1) ・ITの活用によるインフラ抑制 (便利さはそのままに) (1)
<p>適応策検討の方針について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢化を考えるとやっぱりエアコン ・涼しい場所のシェア ・ヒートシェルター (公共の) を作り集まれる場所とする 冬もOK ・地中化道の推進 (夏も冬も) ・あたたかくなることのメリットを活かした施策は? (1) ・緑地帯を増やす ・体づくり 汗かかない子どもも増えているらしい 	<ul style="list-style-type: none"> ・北海道は農産物豊かになるのでは? ・自然の冷却を見直す (ローテクを新技術に) ・服をもっと自由に ・長期休み (1) ・災害時リスク 避難訓練+自分の生活に即したWS ・災害に強い都市~週末キャンプを習慣に (ダーチャのように) ・災害時の対応方針整理 ・健康問題だよな? ・生態系を活用した適応について記載すべき

札幌市温暖化対策推進計画改定に向けた実践者ワークショップ 実施報告 グループ3

全体的に楽しくない計画と感じました。北海道全体のことかつ札幌らしいことが入っていて、イノベーションやパラダイムシフトの視点があるといいと思います。また、2030年と2050年との整合性が薄いという意見も。人材育成という考え方は古いので、仕事やビジネスをつくっていくことで人が育っていくという話もできました。総花的ではなく1つに集中してほしいです。適応策では、オープンデータの活用で行動の喚起、希望としてピアガーデン期間の延長（収入増加）という話もできました。

※ () は、参加者による投票シール数



2050年の長期目標と目指すべき札幌の姿について

- ・観光の抜本的なエコ化（公共交通、e-car、ZEBホテル）
- ・2-5 フェアトレード、地産地消、オーガニックと連動したビジネス振興を！
- ・ビルの屋根を太陽光パネルで覆う
- ・利雪 雪冷房
- ・自然再生、川、湿地、森
- ・ゾーニング クマがする森と分ける（緩衝ゾーンも）
- ・北海道の未来を創造し世界が憧れるまち←市内の言うだけ
- ・北海道全体のことも考えてかつ札幌らしく（3）
- ・夏はずすく→ワーケーションetc
- ・周辺市町村との連携
- ・北海道の中でどうリーダーシップを発揮するのか

- ・まちづくり戦略ビジョン
- ・SDGs・パリ協定「イノベーション」「パラダイムシフト」を前提として示す！（1）
- ・ほかの計画に関与する仕組みを書く！（政策イノベーション）
- ・札幌市内の除雪・排雪対策
- ・生活の質 住民利益を目標に！
- ・ワクワクした計画に！（2）
- ・楽雪 除雪しない道路を楽しむあるくスキー
- ・（家庭部門）ZEHと省エネ家電、高効率給湯の普及が重視していないか
- ・脱炭素型の生活が普通に無理なく行われている。2050年には適切な情報がなくてもOKになっている



2030年の中期目標と目標達成に向けた施策検討の視点について

- ・太陽光に関するポテンシャルマップの公開+運用
- ・2050年ビジョンに対して具体的にイメージできない
- ・人材を育成する仕組み→人材が活躍できる仕事をつくる→もうやめないか？
- ・光熱費流出抑止目標（もれバケツ）
- ・エネルギー貧困国の解消
- ・脱炭素観光都市宣言（RE100、首長誓約など使えるものは使う）
- ・熱供給カバー率の目標設定
- ・森林環境税をうまく使う（1）
- ・なんかもっと全国から注目されるような何か ラーン→何に投資するのか！

- ・環境配慮行動の仕組みが確立されている
- ・仕事、ビジネスをつくる（1）→子ども木育切り口に仕事
- ・市役所の組織統合 環境エネルギー向上に！
- ・エルプラザをSDGs・パリ協定推進センターに！？
- ・札幌市が持っている見える化機器の活用→省エネ家電の普及
- ・環境配慮行動の普及
- ・公共交通・徒歩 分担率を0%に！
- ・NEB
- ・エネルギー+aで仕事になる
- ・環境税日本一高いでも住民税0円

適応策検討の方針について

- ・除雪ボランティアの拡充（1）
- ・テレワークを増やす施策
- ・地下街の充実
- ・温暖化電質の変化？科学的知見→市民の女性情報源
- ・あまり知られていない知見の研究
- ・エアコンのイノベーション（地中熱 雪氷冷熱）
- ・雪氷冷熱による食料貯蓄
- ・家が動かせる←リスクヘッジ
- ・親水（防災）公園
- ・ワーケーションしたら
- ・バックアップ拠点
- ・自分のお金と時間、人脈をどう活かせるのか

- ・市民が事業者が適応しやすい環境を整備
- ・総務省オープンデータをすすめる（例：どこに土地買ったら等企業リスクが判断できる）
- ・食生産の変化を発信（環境教育）
- ・ピアガーデンの期間延長（1）
- ・緩和であっての適応であることの普及を明確にすべき
- ・気候変動による影響の周知
- ・防災とセットで取り組む
- ・防災意識向上のための
- ・熱中症に対する取組
- ・倒木被害本数記載
- ・風倒木の有効活用